

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 27

事業所番号	2691600049		
法人名	株式会社 ピュアロージュ		
事業所名	グループホーム亀岡陽風荘		
所在地	京都府亀岡市本梅町東加舎九日田9-6		
自己評価作成日	平成28年2月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成28年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の身体面の重度化がすすんで行った状況に於いて、質の高いサービスを提供するため、通年に比べ多く外部研修に参加すると共にその方にとって快適に過ごせるために専門機関に対して相談しながらサービス提供する事が出来た。

また、地域との交流では、以前から実施していた事柄から発展するような形での関わりとして、保育園の生活発表会に招待されるという事もあった。当事業所としても、専門性を活かし、地域住民に配布している広報誌に認知症を理解して頂く為のシリーズ講座を掲載した。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

亀岡市西部、大阪府との県境、山や川、住宅の広がる地域で小規模多機能型居宅介護事業所と併設するグループホームである。開設7年になり、開設以来ここで生活している5人の利用者も含めて、現在認知症が進行している状況である。そのため様々な課題に対応するため公立南丹病院の地域リハビリセンターが開催する「摂食・嚥下」や「誤嚥事故」の研修を受講したり、言葉の発しにくい利用者や転倒の多い利用者等について専門職に相談したりしている。地域との連携に苦慮してきたが、散歩や買い物の際の声掛け、広報誌の戸別配布、小学生通学路の見守り活動、地域行事への参加等々により地域に認識されてきており、夏祭りには大勢の参加がある等、きめ細かい努力が実を結んでいる。職員は外部研修を積極的に受講し、委員会活動を活発に行い、夜間居室では安眠できない利用者を和室コーナーで寝るようにする等、「その人らしさ」という理念通り一人ひとりへの対抗をしている。利用者は重度化しているとはいえ、できることを役割として果たしながら自由に暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別に事業所理念を「その人らしさ」としている。広報誌に毎回理念を掲載し、職員のみでなく広く地域との理念共有を図っている。	法人の理念をふまえて、職員の話し合いにより事業所の理念を「その人らしく」と定めている。家族や地域に配布している広報誌に毎回掲載し、周知を図っている。理念の実践として、利用者が外へ出ていっても、その人は外食が好きだからと、制止することなく一緒に散歩したり、毎日が楽しく過ごせるようにとその人のできることや好きなことを入れた介護計画を立てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に食材の買い出しや個人の買い物での交流がある。その他、毎年開催している夏祭りや今年度は亀岡市事業の「涼やかスポット」に参加し、地域の方との交流の機会が拡大するように努めた。	利用者はふだん近くを散歩したり、商店に買物に行っている。小学生の通学路で利用者が「見守り」をしており、小学校の音楽会に招待され、参加している。ベルマークを集めて保育園に寄付し、保育園の生活発表会に招待され、参加している。広報誌や夏祭りのチラシは町内会にポストインし、商店や郵便局等でも掲示してもらい、夏祭りには子どもを含めて地域の人が100人くらい参加してくれている。広報誌には毎回認知症についての記事を掲載し、地域の人への啓発を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行している広報誌の記事として、認知症の症状や対応について掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者が繰り返し転倒した事等の現状があり、事業所が講じた対策を伝えた上での意見を求めたが、違った意見は聞かれなかった。また、夏祭り開催に向け、地域の方が来て頂けるようにお知らせした。	家族、町内会長、民生委員、駐在さん、市長寿福祉課、地域包括支援センターが委員となり、開催し、記録を残している。地域の行事等の情報を得たり、地域に暮らす高齢者の問題を話し合ったりしている。グループホームでの利用者の転倒事故が多い点について意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上不明な点(勝手な判断をせずに確認したうえで事にあたっている。)があった場合に運営推進会議や来庁しての相談・報告している。また、亀岡市から呼びかけがあった「新しい介護予防・日常生活支援総合事業」検討に伴う意見交換会にも参加している。	市とは日常的に相談をしたり、報告を怠らず、連携を図っている。市内の高齢者について市が「日常生活支援総合事業」を計画し、意見交換会に参加している。市内にグループホーム連絡会はないので、自主的なグループホーム連絡会に参加し、情報交換、調理の実習、職員交換研修等をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、身体拘束をテーマとした内部研修を開催している。また、日常的に自然な形で事故につながらない様な工夫をする事で身体拘束をしないように努めている。	「身体拘束をしないケア」について、契約書に明記し、毎年職員研修を実施している。転倒の多い利用者について、夜間のみスリッパに鈴をつけており、家族に同意をとっている。エレベーター、階段、玄関ドア等、すべて施錠されていない。グループホームのドアに、安全を期して夜間のみ鈴をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、虐待をテーマとした内部研修を開催している。「亀岡市高齢者虐待防止マニュアル」を職員が自由に閲覧できる環境を作ることなどで防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をテーマにした内部研修を実施。また、権利擁護に関しての外部研修にも参加する事で学ぶ機会を持った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用前に利用者本人並びにご家族様とお会いし、契約書・重要事項説明書を用いて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス向上委員会が利用者や家族に対してのアンケート調査を実施している。ご家族へのアンケート結果で湿湿度の管理を見直してほしい意見に対して、湿湿度計を設置し、管理していく事に繋がったケースがある。アンケート調査の結果は、翌月に分析しているが、部外者へ表す事は出来ていない。	家族にはカラー印刷の写真が多く、献立、行事報告、認知症の記事等を掲載した広報誌を毎月配布している。また担当職員が利用者の様子を書いた手紙と写真を毎月家族に送っている。サービス向上委員が家族に環境や職員対応についてアンケートをとり、「湿湿度管理をしてほしい」という意見があり、湿湿度計や加湿器を設置している。家族は利用者を法要に連れて帰ったり、外出に連れ出ししたりしているものの、グループホームが行う夏祭りやクリスマス会等の行事や「家族の日」として利用者と一緒に食事をする機会等に参加がほとんどない。	家族はグループホームと共に利用者を支える力として、利用しているグループホームのサービスの向上を願って、運営推進会議に参加したり、家族交流会に年2回くらい参加し、意見交換することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の管理者会議(定例会議)を開催し、事業所での課題及び事業所としての意見が出せる機会がある。また、その会議の中で代表者が出席しており、即時に課題解決につながった事もある。相談等が必要な時には日常的に実施している。	併設事業所と共に全体会議、内部研修会、グループホーム会議をそれぞれ毎月開催し、情報共有をしている。内部研修は認知症、感染症、接客等年間プログラムを立て実施している。外部研修は受講料や交通費の支給がある。職員は利用者を担当すると共にサービス向上委員、設備インフラ委員、広報委員、消防災害委員、自己啓発委員のいずれかに属し活動している。職員は毎年自身の目標を立て、管理者との面接により励んでいる。会議で職員は活発に意見交換しており、「加湿器を設置しては」等、改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が全体会議議事録にて事業所運営状況の概要を把握するとともに月1回の定例会議にて事業所からの要望や現状の課題となっている事を聴取している。不定期ではあるが代表自ら事業所へ足を運ぶことがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	別紙職員研修記録一覧の通りの研修参加実績がある。外部の研修に関しては、管理者並びに自己啓発委員会で情報収集し、全職員が目に触れる環境を整え、参加希望に応える様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が発信する日本認知症GH協会が主催する研修会への出席し交流を図っている。また、法人内部で各事業所の職種(看護職・ケアマネ職)や役職別(管理者・介護リーダー)の交流が図られている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前の面接時に本人・ご家族それぞれに対して要望を聞き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前の面接時に本人・ご家族それぞれに対して要望を聞き取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入する段階で他サービスを利用したケースはないが、利用者の身体・精神状態を把握した上で、利用者やご家族の希望を聞き取った上で質の高い生活を過ごせるように考えケアプランの作成にあたっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゴミだしや日常の食材の買い出し等日常生活の中で「一緒にする」を念頭に置き、実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者との面会時間には制限を設けていない現状で、日常のご家族と一緒に外出されている方もある。サービス利用開始前の面接時にそうした体制である事を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者全てに出来ている訳ではない(本人の心身状態により)が、神社やコンビニ等へ職員と一緒に外出するといった事が実施できた。	野球観戦の好きな利用者を連れて亀岡運動公園で開催される少年野球の試合を見に行く。加舎神社はいつもお参りしていたという利用者と同行している。公民館で社協が開催している「ふれあいサロン」に利用者で行くと友人に会っておしゃべりを楽しんでいる。近くの小学校の音楽会に参加すると、利用者は地域の人に出会って楽しそうである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操や洗濯物たたみ・干し等を複数の利用者職員と一緒に行動中利用者の関わりが持てるように支援している。また、一人の利用者の自室に他利用者が訪れ、茶を飲みながらTVを見て話せる事が日常的に行われるようになった。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に実施する金品等の引き継ぎ時に現在の利用者様・ご家族の様子を伺っている。また、その際に相談事等があった場合にはフォローする場面がある。実際に他事業所へ面会に行き、利用者の癖等を伝えた事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の面接時・ケースカンファレンス等を通じ本人や家族の希望を聞いている。	利用開始時には管理者とケアマネジャーが面接し、アセスメントしている。「おしゃれがしたい」「おいしいコーヒーが飲みたい」「外出したい」等、利用者の思いを聴取している。亀岡、京都、大阪等の出身地、農家、縫製業等生家の職業、農家、学校の先生、建具屋等、夫の職業、子どもは2人等、生活歴、すきなことは畑仕事、外食等を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の面接により本人やご家族からの情報収集をしている。外部のサービス提供がなされていた場合はその事業所からの情報提供を求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス提供する中で状態に変化があった場合には支援記録等の各種記録に記載し、職員一人ひとりが現状把握すると共に毎月開催している定例会議の中でその時点での状態を踏まえ今後のサービス提供に対しての討議を実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化した場合に限らず、ケースカンファレンス以外でも日常的に討議しており、そこでサービス内容に変更があった場合には、申し送りノートを利用して周知している。	介護計画はケアマネジャーと担当職員が相談して立てており、「人の役に立つ」「外出」「ゴミを捨てる」「買物に行く」等、身体介護のみならず暮らしのなかで生きがいのある項目を入れているものの、重度の人については入っていない。介護記録は介護実施の際の利用者の発言や様子を書くことになっているものの情報は少ない。モニタリングはケアマネジャーと担当職員、リーダーで毎月実施しているものの、「利用者・家族の満足度」、「目標達成度」について点検されていない。	介護計画はたとえ重度の利用者であろうとも暮らしのなかの楽しみの項目を入れること、介護記録は介護を実施した際の利用者の様子や発言、拒否があった際はその要因を書き、モニタリングの根拠になるようにすること、モニタリングは介護計画の項目ごとに「ケアの実施」「目標達成度」「利用者・家族の満足度」「今後の方針」について点検し、記録に残すこと、以上の3点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケースカンファレンスを通じ、職員からの情報を収集しており、課題や希望に対しての発生や変更があった場合には介護計画を見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能の維持向上が一人ひとりの質の高い生活には不可欠であるとの考えから、地域リハビリ支援センターとの連携で専門的見解を得た上で日々の支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ベルマークを収集し、保育所へ届けるといった交流を図っていた。そうした中で構築された良好な関係性から保育所が開催した生活発表会の見学に招待された。また、小学生の下校時の見守り運動は継続して実施し、前年に引き続き、小学校開催の音楽会に招待されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前の面接時に希望される医療機関の確認をしている。また、協力医療機関との連携については、事業所看護師が相談連絡が必要と判断した際には常時そうした事が可能な体制を築いている。他の医療機関においても互いに情報交換している。	従来のかかりつけ医の受診を希望する人は家族が同行しており、グループホームでの情報を文書で提供している。事業所の協力医は毎月2回往診に来訪、歯科も訪問歯科医を利用している。認知症について受診している利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がご利用者への係りを持っている事からも日常的に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、当事業所からの情報を書面で提供している。 また、入院中の利用者の状態確認の為医療機関へ赴き、退院予定の連絡を受けた際は、書面での情報提供依頼をする等し関係作りを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族が利用者の状態変化を知って頂くことで終末の受け入れが容易になる意図を含めて毎月ご様子を送付している。また、終末期にはご家族との面接の機会を設け、変化が考えられる意向の聞き取りにあたり共にご家族の意向決定に不可欠な医療情報や事業所のできる事も電話等を利用して提供している。	利用者の重度化や終末期についての方針を文書化し、それをもとに利用者や家族に説明し、意向を聞いている。「ここで最期まで見てほしい」や「入院したい」等、意向はさまざまである。往診にきてくれる医師が24時間オンコールになっており、相談できる。職員はターミナルケアの研修を受講している。事例はまだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救急救命講習・「摂食・嚥下の基礎を勉強する会」などへの出席によるスキルアップを図った。全職員に対しては、利用者の誤嚥事故があった際に予定外で「緊急時対応」をテーマに内部研修を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「消防委員会」を「消防・災害委員会」に改め、地震、水害等の災害も視野に入れた取り組みを開始し、「地震・風水害防災マニュアル」を作成した。また、火災を想定した避難訓練、通報訓練は実施したが、地域と協働しての実施は行っていない。	火事を想定して年2回の避難訓練をしており、消防署の協力を得ているものの、地域の人の協力は得られていない。地震・風水害対応マニュアルを作成しているものの避難訓練は実施していない。備蓄、ハザードマップを準備し、AEDを備え、職員は普通救命訓練を受講している。	避難訓練は地震や風水害対応を含めて、職員の身につくように回数を増やすこと、その際に地域の人の協力を得られるようにすること、法人内の相互協力の対応マニュアルを作成すること、以上の3点が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の内部研修を開催。また、職員の言葉かけを利用者へのアンケート項目の一つとして調査を実施する事で現状把握に努めると共に会議を通じ結果を報告し職員意識を深めることに繋げた。	人生経験豊富な高齢の利用者への尊敬の念を忘れずに対応するようにしている。サービス向上委員が職員の対応について利用者や家族にアンケートをとっている。プライバシーについて内部研修を実施し、居間で職員が業務連絡をしたり、記録を書いたりするときには情報流出に十分注意している。毎日の暮らしでなるべく利用者の意志を尊重するために表情やしぐさに注意し、食べたくない様子なら食事を後にすることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思っていることを表す事は本人との関係性が良好でなければ出来ないと考え、接遇に関しての内部研修を実施し、コミュニケーション技術の向上を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個人がどのように考え、どのように思われるかを想定した上でのサービス提供を心掛ける事により、職員の業務を優先するといった事を回避できると考え、実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで衣類を購入できるように一緒に外出する事もある。また、身だしなみに関しては、起床時の着替え・髪の毛をたく等毎日実施している。サービス向上委員会にてアンケート調査を実施した経過がある。個人の好みのシャンプーを使用されている方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の関係により気の合う合わないがある為、座る場所には配慮している。また、調理(食材のカットや味見等)の際に利用者と一緒に実施している事が多い。食材の買い出し時は、利用者間の会話にもつながっている。	利用者の希望を聞きながら職員が献立を立て、利用者と一緒に食材を買いに行く。和風の家食で、カロリー値や栄養バランスを点検している。利用者は野菜を切ったり、皮をむいたり、味見をしたり等、できることをしており、おせち料理も手作りしている。時には近くのすし店で握りずしを買ってこることもあり、外食に出かけることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は、一目で1日の摂取量が確認できるように書面に記載している。栄養バランスが偏らないように献立作成時に複数の人間が目を通してメニュー決定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。その際に、口腔内の状態も併せて確認している。また、入歯を使用されている方は毎晩、入れ歯洗浄剤を使用し、口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄と水分摂取がいつ行われたかを一目瞭然に見れる記録をとり、利用する事で、個人の排尿・排便間隔を掴み、それを基に事前にトイレでの排泄行為が出来るように支援している。	水分摂取量と排泄との記録を詳細に取ることにより、利用者ごとの排泄パターンを把握し、声掛けやパット交換をしている。また利用者の様子や動作を察知している声掛けすることもある。排便は水分提供に努め、飲み方の少ない利用者には少し甘味を付ける等している。その他サツマイモを食事に使う等、薬に頼らないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で本人の状態にあった体の動きを多く取り入れられるように支援すると共に水分摂取に関しては、その日の水分量を把握し、少ない場合には、甘みを付ける等の個人が摂取できるような工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気持ちよく入浴して頂く為の工夫として、入浴前にゆっくりと話しをし、本人が入る気持ちになられた上での入浴を実施。また、ごみを取り除く・本人が好む湯温を知り調整するといった工夫もしている。ゆず湯や入浴剤使用しての入浴も実施した。	利用者の重度化のなか、入浴の声掛けが理解しにくい利用者もあり、寄り添いながらゆっくり話をし「お風呂に入る」という気持ちになってもらうようにしている。ゆっくり浴槽に浸かってもらいたいとリフトを設置している。週2回の入浴である。近くの湯の花温泉や京都市洛西竹の里にある温泉等に行くこともあり、温泉好きの人の楽しみである。	入浴は食事と同じくらい、利用者にとっては暮らしのなかの大きな楽しみである。毎週3回の入浴を支援することが望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類は、定期的かつ汚れた場合には交換している。気温変化への配慮として、部屋全体を適温に保つ事もしている。利用者の精神面での不安定が見られる場合は、落ち着く為に話を聴く等し、就寝前の支援が安眠につながるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変薬があった際には変更日・変更薬名称を記入して周知徹底している。誤薬予防の対策として薬ケースに個人の服薬量を明記している。目的・副作用に関してもケースファイルに綴っており、いつでも閲覧可能な状況である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活においては、食事準備やごみ出し等を個人の役割として位置付けている。楽しみごとや気分転換を目的として実施している事として、定期的・不定期の外出や個人の希望された事柄に対しての実施が有る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	不定期ではあるが、当日に本人が希望した事や提案の上屋外へ行く事は実施している。ご家族に協力依頼しての墓参りや法事といった外出はあるが、地域の人々が協力して頂いての外出はない。	ふだん歩行できる利用者や車椅子の人も職員が押して、近くを散歩し、近所の人に声を掛けたり、花をもらったりしている。商店に行って買物することもある。加舎神社への初詣、亀岡運動公園での花見、出雲神社での紅葉狩り等季節の外出や池田市のラーメン博物館、亀岡市のコスモス畑、出雲大神宮等へのドライブをしている。リンゴやメロンパンを買いたいという利用者を連れてなんでも売っている近くの商店へ行く。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常に自分の金銭を管理されている方はいないが、外出時に持参し何かを購入する際に自分で支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が直接所持されている携帯電話で掛けられるという事も以前はあった。現在は、頻回に実施している訳ではないが、本人が希望された際に電話で話せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂にはカーテンを設置し、採光調整が出来るようにしている。壁にはカレンダーや掛け時計、地域の情報誌等も掛けており、生活感を採り入れている。トイレは、消臭剤と芳香剤とで臭いへの対策を取っている。	グループホームのドアを開けるとゆったりとした居間兼食堂が広がり、オープンキッチンがついている。窓が大きく明るい。6畳くらいの畳コーナーには座布団や洗濯ものが置かれ、生活感がある。4人がけのテーブルに気の合う利用者同士が座っている。居室が並ぶ廊下の突き当たりには2人掛けの椅子が置かれ、利用者の居場所を提供している。居間の壁には行事の写真、利用者と一緒に作った季節の貼り絵等を掛けている。時には職員が花を持ってきて飾ることもある。認知症の混乱を招くような強い光や大きな音はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルは3脚あるが、一つにまとめたの使用を敢えて避ける事で、様々な対応が可能になるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に住まいされていた時の馴染みの品を持参して頂きたい旨の説明を利用前に説明しており、実際に持参されている方がある。	居室は洋間にクローゼットがついている。窓は大きく、明るい。利用者はベッドを自分流に設置し、持ち込んできた筆筒、整理筆筒、椅子、テーブル等をレイアウトしている。テレビ、家族等の写真、誕生会の色紙、一輪挿しの花、自作の貼り絵等を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設置されているものの用途が判るように字で表す・絵で表す等の工夫をしている。床面は、なるべく色の違いが出ない様な工夫もしており、弾力性の高いマットを使用し転倒の際の骨折予防を図っている。		